



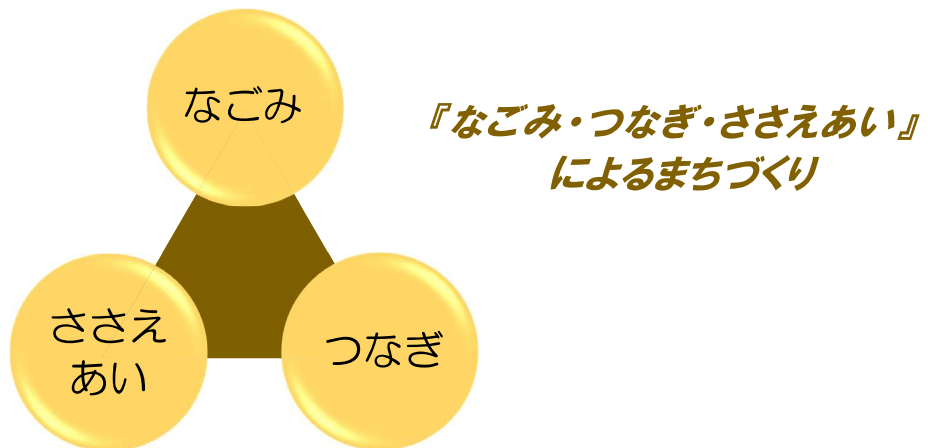
基本構想

1. まちづくりの理念

『理念』とは、今後のまちづくりに関して基本的な考え方となるもので、全ての施策の立案に共通するものであり、また、住民の様々な活動を展開する上でも共有していく考え方（コンセプト）となるものです。

町の規模は小さいですが、“お茶を核とした伝統ある歴史”の蓄積があり、茶畑をはじめとする生業景観に包まれ、のどかでゆとりのある暮らしが展開されています。また、この環境を求めて町外からの移住者や、外国人の来訪も年を追うごとに増えてきています。

これまで茶源郷として培ってきた伝統や文化を大切にするとともに、新しい時代に対応した、“自然豊かな素敵な暮らし”を創りあげていくために、まちづくりの理念は次のものとしてします。



【なごみとは】

里山の自然環境やお茶の伝統・文化を大切に継承していくとともに、生活の豊かさや利便性を高める新しい技術や、様々な人々との交流を積極的に受け入れ、お茶の香りのように和東流にブレンドされたなごみのあるまちづくりを目指すものです。

【つなぎとは】

お互いの顔が見えるコミュニティを大切に、人とひととのつながり、地域間の繋がりを強めるとともに、住民・行政・事業者が相互に持ち味や特性を活かした役割分担が機能しているまちづくりを目指すものです。

【ささえあいとは】

保健・医療・福祉が一体となって、幼児から高齢者まで誰もが安心して暮らせる仕組みづくりとともに、次世代を担う子どもたちを地域ぐるみで育て・支えるまちづくりを目指すものです。

2. 将来像

『将来像』とは、目指すまちの姿を端的に表すものです。

住民の方々が将来像を共有し、協働のまちづくりの“合言葉”であるとともに、対外に向けては、“和東町をアピールする言葉”でもあります。

また、第4次総合計画の将来像にも使われている“茶源郷”というのは、近年内外に浸透し始めている言葉であり、第5次総合計画でも継承していく言葉と考えます。

但し、“茶源郷”も、新たな時代環境の変化の中で、新しい生活のあり方を探る必要があり、また、(仮称)犬打峠トンネルの開通等により、和東町が果たすべき役割も変化してきています。

そこで、第5次総合計画における将来像は次のものとします。

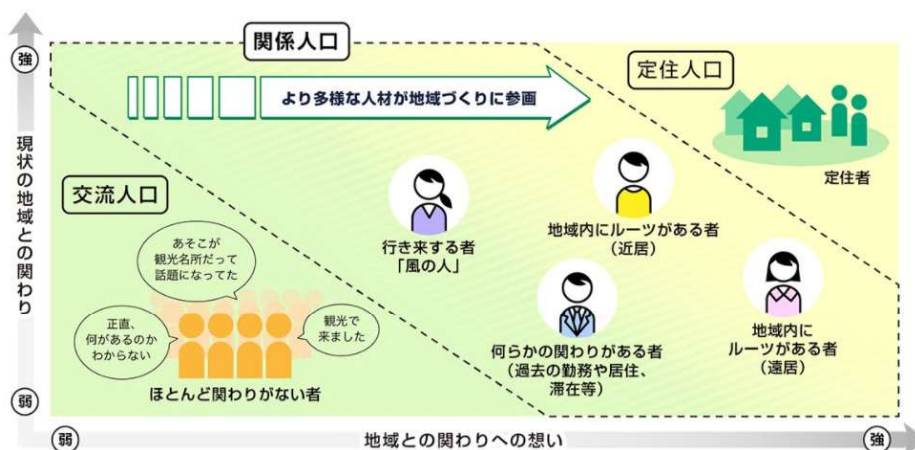
和^{さと}の郷 知^{さと}の郷 茶源郷 和東

トンネルを抜けると日本の故郷ともいうべきのどかでなごやかな空間(和の郷)が広がっています。その中で子どもたちは伸びのびと学び・育ち、高齢者は知識や知恵を使ってまちづくりに積極的に参加し、さらに町外からも様々な学び・遊びの場として人々が訪れるまち(知の郷)が展開されている姿を表したものです。

第2章 将来人口と交流人口

本町においては、町内に住む方々（定住人口）とともに、本町と強い繋がりを有し、定住はしていないが、町との行き来がある方々（関係人口）を含めて『人口』と捉えるとともに、観光客や体験学習等で訪れる方々を『交流人口』として設定しています。

＜人口区分の捉え方＞



(資料：総務省HP)

1. 将来人口

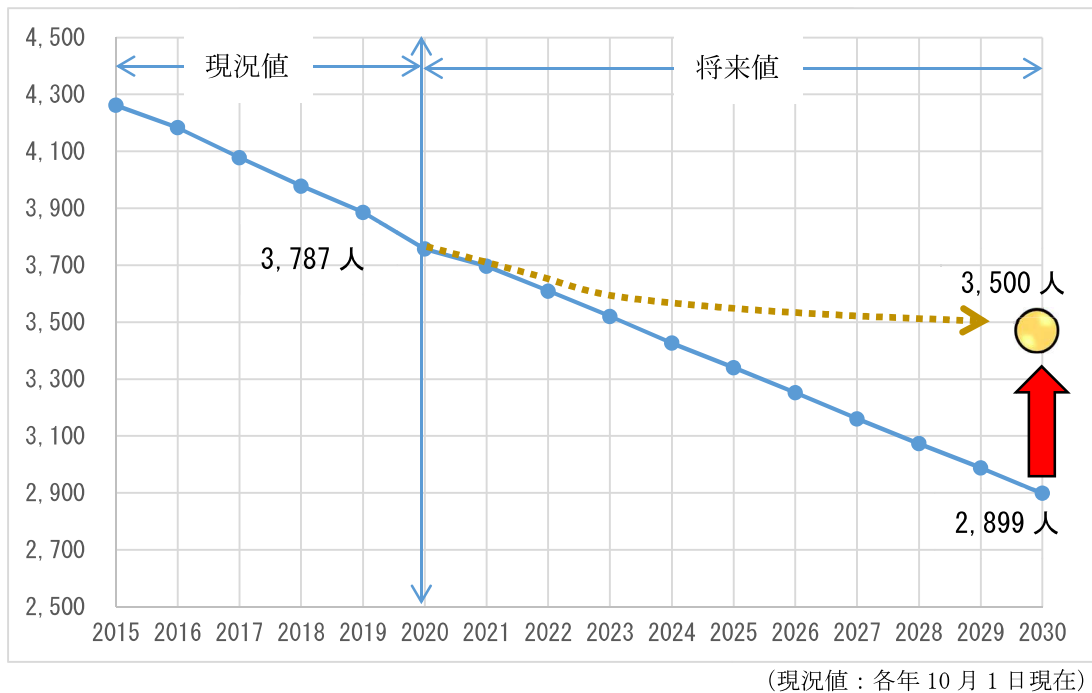
現状の傾向がそのまま続くと、10年後の定住人口は3,000人を切ることも想定されま

す。しかしながら、令和5年度には（仮称）犬打峠トンネルが開通し、周辺地域への通勤・通学条件も良くなります。また、令和6年度には、福祉・医療・生活等の拠点ともなる（仮称）総合保健福祉施設の建設も予定されており、内外の交流も促進され、定住環境が飛躍的に良くなることが期待されます。

このような将来見通しを踏まえ、計画目標年の将来人口は次のように設定します。

将来人口（令和12年の目標値）	
定住人口（住民基本台帳ベース）	3,500人
関係人口	300人
↓	
将来人口	3,800人

＜住民基本台帳をベースとした人口推計＞



この目標人口を達成していくためには、次の4つの視点から今後の施策展開に取り組ま
す。

将来人口達成に向けて

現状は、平均すると約90人程度が毎年減少しています。目標値を達成するには、毎年
の減少人数を約30人程度に抑える必要があります。

そのためには、次の点について、強力に推進していくものとします。

【自然動態の面から】

- ① 合計特殊出生率を上げるため、子育て支援策のさらなる充実
- ② 健康寿命を延伸し、生涯にわたって元気に暮らせる福祉対策の充実

【社会動態の面から】

- ③ 移住等の転入を促進するための、受け入れ環境や体制の充実
- ④ (仮称) 犬打峠トンネルのインパクトを最大限活かし、通勤条件の改良等による
就業の場の確保

2. 交流人口

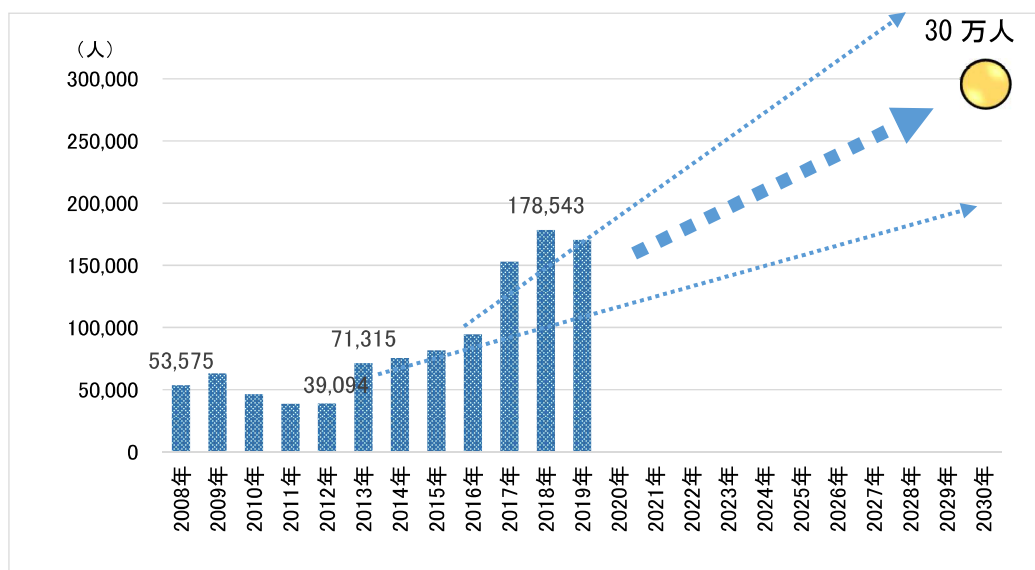
和束町では、観光客数を単なる観光客やイベント参加者だけでなく、“教育観光”による来訪者や外国人観光客も含めて捉え、「交流人口」と称しています。

特に近年、外国人観光客は急激に増えており、コロナ禍が収束した状態になると、また回復していくことが見込まれます。

第4次総合計画では、交流人口「25万人」を目標としましたが、近年の動きや、今後まちづくりの柱として観光・交流を積極的に展開していくことを含め、第5次総合計画では次のように設定します。

交流人口（令和12年の目標値）

300,000人




第3章 地域構造

今後の地域構造を考える上での大きなインパクトは、「(仮称) 犬打峠トンネル」が開通し、京都・大阪・名古屋といった周辺都市との近接性が大幅に改善されることと、町内においては、役場隣接地に住民の総合的な福祉やコミュニティ拠点となる「(仮称) 総合保健福祉施設」が整備されることです。


このことを踏まえ、今後の地域構造形成の基本的な考え方は次のものとしします。





 和東町全体を「緑と里山の環境整備エリア」と位置づけます。


 「緑と里山の環境整備エリアの中に、既存集落を中心とした「生活環境整備エリア」が構成されています。


 町の代表的な「茶畑景観エリア」です。

 (仮称) 犬打峠トンネルから宇治木屋線沿線は、今後新たな流動軸となるため、「沿道型サービスエリア」とします。

 役場に隣接し、「(仮称) 総合保健福祉施設」の建設が予定されている、「暮らしの拠点エリア」です。

 湯船森林公園周辺を「レクリエーション拠点エリア」に位置づけます。

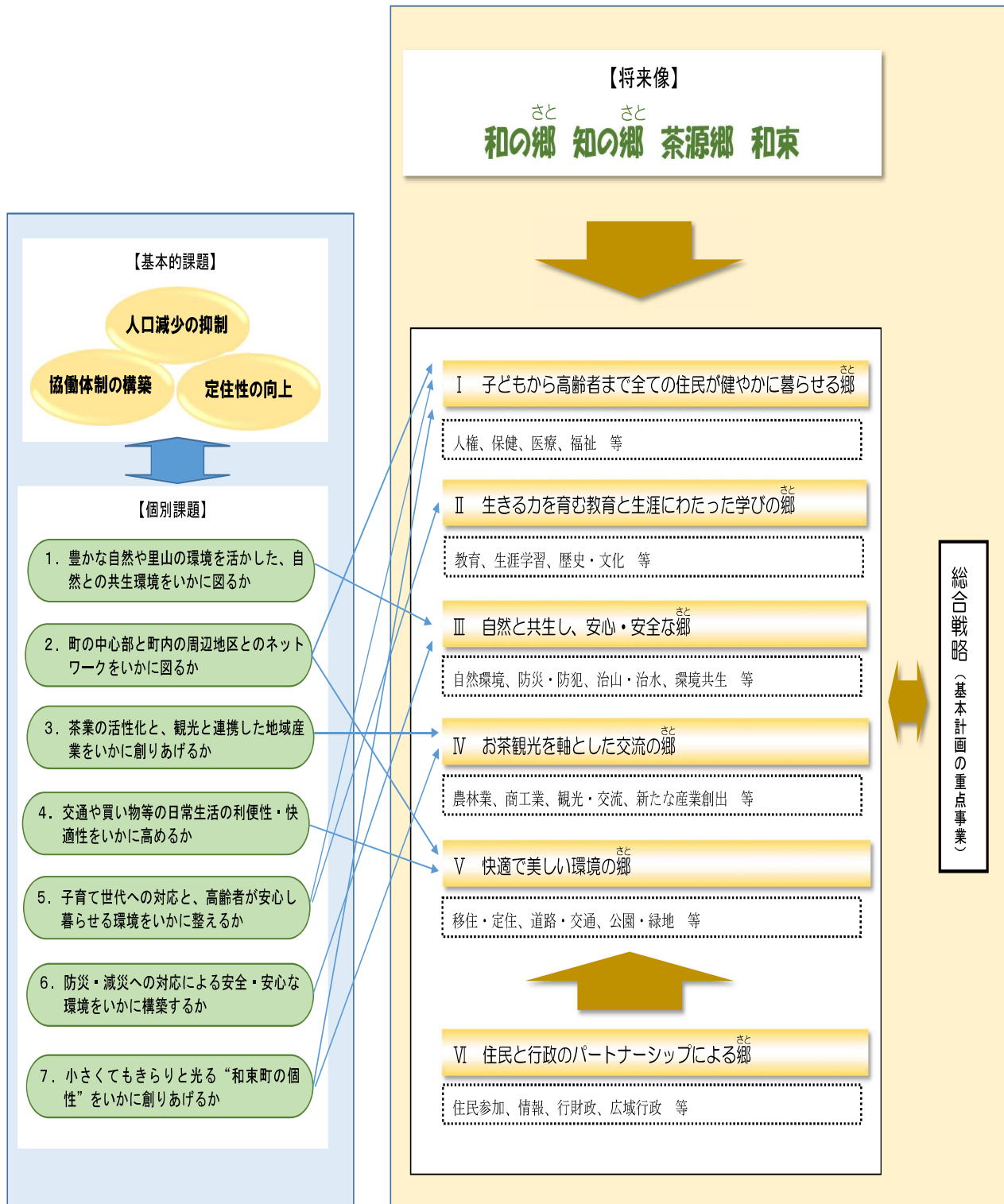
 グリンティ和束～運動公園一帯を「交流拠点エリア」として、地域の活性化を図る拠点とします。

 町の代表的な茶畑景観エリアを含め、緑泉コースを中心とした人の回遊ルートの整備を図ります。

 木津信楽線と白栢橋北側の宇治木屋線を幹線道路として位置づけます。

第4章 施策の大綱

1. 施策の体系



2. 施策の展開方向

I 子どもから高齢者までの全ての住民が健やかに暮らせる郷

誰もが基本的な人権が守られ、子どもからお年寄りまで、全ての人が住み慣れた地域の中で健康を維持し、安心して生活できる社会の実現が大切です。そのためには、健康と生きがいを自ら作り出すことを基本に、小さなまちならではの“和の郷”として、個人、家庭、地域で互いに助け合う共生社会づくりを目指します。

また、元気な高齢者の積極的な社会参加の仕組みづくりを行うとともに、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし、自立した生活ができる福祉サービスの充実に努めます。さらに、これまでも先進的に取り組んできた子育て支援をより充実させ、“子育てするなら和束”といわれるまちづくりに努めます。

基本施策 1	人権尊重社会の形成
基本施策 2	地域福祉の推進
基本施策 3	保健・医療体制の充実
基本施策 4	子育て支援の充実
基本施策 5	高齢者対策の充実
基本施策 6	障がい者支援の充実

II 生きる力を育む教育と生涯にわたった学びの郷

子どもの教育は学力だけではなく、社会に出て自立していく力、生きていく力を養うための大切なプロセスです。また、幼児～子ども～青年～成人～高齢者がそれぞれのライフステージの中で、学びやスポーツを通じて自己啓発や自己実現を図ることができる環境づくりが大切です。

本町には優れた自然環境の中で育まれたお茶の歴史や豊かな地域文化があり、これらの文化の保存・継承とともに、外国人との交流や音楽や芸術などを介した多彩な活動を展開し、新たな“和束文化”を創造し、“知の郷”として、住民とともに来訪者も含めて多様なニーズに応えられる体制づくりに努めます。

基本施策 1	学校教育の充実
基本施策 2	生涯学習の充実
基本施策 3	国内外の交流と国際化への対応
基本施策 4	歴史文化の保全と継承

Ⅲ 自然と共生し、安心・安全な郷

住民が安心・安全に過ごせるまちづくりは基本となるものです。近年、全国各地で集中豪雨等による被害が続いており、過去に大水害の経験を持つ本町においては、災害に対する危機意識は強いものがあります。また、複雑化する社会において発生する様々な犯罪に対し、犯罪防止への意識も高まっています。

これらを防止するためには、治山・治水事業を関係機関との連携のもと進めるとともに、子どもや高齢者を守る防犯対策も強化していく必要があります。

また、優れた自然環境を有する本町においては、“環境共生先進地”としての取組も重要であり、住民一人ひとりの取組を基本に、環境にやさしい生活の実現に努めます。

基本施策 1	防災・防犯体制の充実
基本施策 2	河川環境の整備
基本施策 3	上・下水道の整備
基本施策 4	森林保全と治山・治水
基本施策 5	環境と共生した生活スタイルの確立

Ⅳ お茶観光を軸とした交流の郷

産業の力は、地域活性化のエンジンとも言えるものであり、雇用を伴う人口定住のための大きな条件ともなるものです。

本町は、お茶を基幹産業として、“お茶のまち和束”として取組んできましたが、近年は観光・交流との連携による様々な展開をみせています。今後とも『お茶×α』としてさらなる複合的な取組みとともに、足腰の強い産業づくりのための6次化への取組を推進し、和束ブランドの形成を含めた、“まち全体がお茶のテーマパーク”という考え方に基づく施策を展開していきます。

また、(仮称)犬打峠トンネル開通に伴い、様々な人と物の流れが発生することが予想され、このインパクトを効果的に受け止めるための対策に取組みます。

基本施策 1	農林業の振興
基本施策 2	活力を生み出す商工業の振興
基本施策 3	波及効果を高める観光・交流産業の展開
基本施策 4	新たな産業の創出

V 快適で美しい環境の郷

人口減少の抑制を図るためには、現在の住民の定住性を高めるとともに、新たな住民としての移住者の促進を図っていく必要があります。

本町は「日本で最も美しい村連合」に加盟し、茶畑景観が京都府の景観資産の文化的景観第1号に登録され、さらに、世界文化遺産登録への動きも始まっている優れた環境を有しています。さらに、(仮称)犬打峠トンネルの開通により、通勤圏や生活圏は広がり、住民の定住環境の高まりが期待されています。

今後は、優れた自然環境の中でゆとりある生活ができる住環境の整備とともに、道路・交通網のさらなる充実や、身近な公園・緑地の整備を図り、快適で住みやすいまちづくりに努めます。

基本施策 1	移住・定住促進と快適な住環境の整備
基本施策 2	道路網の整備
基本施策 3	公共交通システムの充実
基本施策 4	公園・緑地の整備

VI 住民と行政のパートナーシップによる郷

まちづくりの基本は、住民との協働による取組です。それを実効性あるものにしていくために、住民自治を確立し、様々な情報を共有し、住民参加型の体制づくりに取組んでいきます。

また、まちづくりのコーディネート機能を担う行政においては、職員の資質向上や機動的な体制に向けての改革を進めるとともに、選択と集中の視点から健全な財政運営に努めます。

さらに、住民生活の広域化も含め、周辺地域との連携体制を図り、効率的・効果的な行政運営を図ります。

基本施策 1	住民参画のまちづくり
基本施策 2	情報システムの強化と公開の推進
基本施策 3	効率的・効果的な行財政運営
基本施策 4	広域行政の推進

